

## 別記様式（第4条関係）

## 会 議 録

会議の名称	第10回総合計画及び地域創生戦略委員会	
開催日時	令和3年6月17日（木）14時00分～16時00分	
開催場所	宍粟市役所本庁舎 402・403 会議室 一宮市民協働センター 会議室2 自宅等（WEB参加）	
議長（委員長・会長）氏名	林 昌彦	
委員氏名	（出席者） 東 里司、田中一成、坂本幸子、 林 昌彦、山國和志、高橋美佐子、 宮辻弘学、秋山裕美、春名文子、 西山大作、本條 昇、久野洋貴、 岡本一也、西川彩児、村上晃宏	（欠席者） 大坪津義、山田 寛、小林由佳子、 谷口朱美
事務局氏名	市長公室：谷本次長 市長公室地域創生課：西嶋課長、谷本副課長、清水係長、前田係長、 白畑主査、田淵主事 教育部：橋本次長 教育部教育総務課：進藤次長兼課長 教育部学校教育課：谷尻課長 教育部子ども未来課：中尾次長兼課長 教育部施設整備課：西林次長兼課長 教育部社会教育文化財課：水口課長 教育部学校給食センター：池本所長	
傍聴人数	傍聴者なし	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	（非公開の理由）
決定事項	（協議事項） （1）計画（基本目標と基本方針）の具体的内容について ①就学前教育の充実【資料②-1、②-2】 ②学校教育の充実【資料③-1、③-2】 ③青少年健全育成の推進【資料④-1、④-2】 ④人口ビジョン【資料⑤-1、⑤-2】 （その他） 第11回宍粟市総合計画及び地域創生戦略委員会の開催日について	
会議経過	別紙のとおり	
会議資料等	別紙のとおり	
議事録の確認	（委員長等） _____ 委員長 林 昌彦	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
委員長	<p>■開会</p> <p>本日もリモートによる開催となっています。緊急事態宣言は解除されるようですが、引き続き慎重な対応が必要です。しばらくはリモート開催が続きますが、よろしくお願いします。</p> <p>■協議事項</p> <p>(1) 前回結果のフィードバックについて (前回委員会等での意見・提案に対する回答について資料①-1に基づき説明、計画素案の修正について資料①-2、①-3、①-4、①-5、①-6に基づき説明)</p>
委員長	<p>今の説明に対して意見のある方はお願いします。</p> <p>質疑無し。</p> <p>(2) 計画（基本目標と基本方針）の具体的内容について ①就学前教育の充実 (資料②-1、②-2に基づき説明)</p>
委員長	<p>今の説明について、ご意見、ご質問はありますか。</p>
委員	<p>現状・課題・取組と上手くまとめられています。関係者評価について令和2年度実施率が60%で、A評価が74.4%と高い評価となっていますが、目標はA評価100%とのことで、何がA評価になっていないのでしょうか。</p>
事務局	<p>評価は園所ごとに実施しており、昨年度A評価になっていないものとしては、例えば、個々の発達特性に応じた関わり、所内での研修による振り返りを生かすことができているかという項目でB評価となっています。各園で目標を設定しており、それぞれB、C評価があります。年度当初に目標を設定し、振り返り、次年度の保育につないでいます。実績から評価及び改善が期待できることから、100%を目標として掲げています。</p>
委員長	<p>就学前教育の充実は全国どの自治体でも取り組むことで、宍粟市らしさは①-3の木育だと思います。説明では木育と言っていましたが、ここでは木育という言葉が見当たりません。学校教育の充実では木育という言葉が</p>

事務局	<p>出てきます。宍粟市ならではの特色として園所の取組でも木育という言葉を入れた方が良くもかもしれません。お子さんが学校に行っている保護者の委員にもお聞きしたいのですが、宍粟市が木育に取り組んでいることをどれくらい認知されているのでしょうか。知れ渡っていないのであれば、周知も必要になります。</p> <p>木育という言葉が入っている部分と入っていない部分がありますので、追記します。木育の周知の状況は、平成30年度に掲げ、浸透していくように幼稚園・保育所、学校関係でも進めてきましたが、昨年度、一昨年度は新型コロナウイルス感染症によりイベントが中止となっています。市内全域としては、まだまだ周知が必要です。</p>
委員長	<p>宍粟市では多くの人を知っているという状況にしてほしいので、しっかり情報発信をお願いします。</p>
委員	<p>②学校教育の充実【資料③-1、③-2】 (資料③-1、③-2に基づき説明)</p>
委員	<p>素晴らしい目標で進めていると思いますが、不登校、引きこもりとなっている人はたくさんいます。そうした人に手を差し伸べてあげたいのですが、現状もわからず、手立てがない状況です。そのような人の状況を把握しているのでしょうか。また、どのような対応をしていますか。</p>
事務局	<p>ご質問については青少年健全育成のところに該当する内容ですが、課題の中で教職員が児童生徒に寄り添える時間を確保することを挙げています。不登校の児童生徒への対応も必要となっており、適応指導教室等を利用し、子どもにも伝えながら、スクールソーシャルワーカー等にも関わっていただいています。地域の方の力も必要となりますが、地域の方に支援をいただくまでには、学校に登校できるようになることも必要だと考えています。地域において小さい時から声をかけていただくことで、いろいろな人が認めてくれていると感じることがができます。地域行事への参加など、地域の中で進めていただければよいと思います。</p>
委員	<p>学校給食等での食育推進について、目標数値として農産物の利用率を100%に近づけるとしていますが、生産者は減っています。取引先を通じて、この時期はこれがほしいということを前もって、できれば作付け前に情報提供があれば、生産者も出荷できると思います。また、生産者との交流を</p>

事務局	<p>やっているところもありますが、できるだけ生産者の想いを子どもに伝えていく方法も増やしてほしいと思います。</p> <p>今後、現在給食に市内で生産された農産物を使っておらず生産が少ない作物について、これぐらい使いたいということを生産者に話していきたいと思います。1年前には計画を立てていければという想いは持っています。交流については、生産者が学校に出向く取組を2年ほど前に実施しました。そういう機会も食育の一つとして、今後もやっていきたいと思います。</p>
高委員	<p>主な取組の①-6 について、道徳教育、体験、郷土愛、命を育む大切さがありますが、地域の歴史ということを教育に盛り込んでもらえたらと思います。郷土愛につながっていくものとして、地域の歴史もあると思います。</p>
事務局	<p>地域の歴史について小学校では総合的な学習の時間に、ふるさと学習として地域のことを学ぶ取組を進めています。地域のことを学び、地域の方から話をうかがったり、名所に行ったり、学ぶ機会がたくさんあり、劇やポスターにして発表しています。</p>
委員	<p>英語教育の強化の取組を挙げていますが、指標では国語・算数になっていますが、英語を指標には加えないのですか。</p>
事務局	<p>英語教育については、小学校でも3年生から外国語活動、5年生から教科として実施しており、今後も大切にしていきます。小中がつながる英語教育として、小・中学校で先生がお互いに出向いています。中学校にはALTがおり、小・中学校の先生とともに研究を進めています。国語、算数は全国調査で把握できますが、英語については3～4年に1回となっているとともに取組を始めたばかりなので、指標には入れていません。</p>
委員	<p>イングリッシュコーディネーターは教員なのですか。</p>
事務局	<p>5年間ALTをした人に勤務してもらっています。英語指導の経験を生かして、教師の指導、外国語活動を行っており、教育委員会の事務局職員です。</p>
委員	<p>たくさんの施策について、子どものために頑張っていると思いますが、先生が元気よく働くことができるよう、実施していることがあれば教えてください。</p>

事務局	<p>①-8 にありますが、忙しくて心が減入ってしまうと子どもたちにも丁寧な対応ができなくなるため、寄り添える時間を確保することが大切です。ICTの有効活用により、授業のデータや子どもに提示するものなどを効率的に活用することを進めるため、研修会を開き、授業に活かしています。また、スクールサポートスタッフの雇用や、部活動指導員を配置することで、先生が子どもたちと関わる時間を確保しています。</p>
委員長	<p>②-4 のスクールカウンセラーについて、教職員も対象になるのでしょうか。</p>
事務局	<p>全ての学校で関わっていただくよう、1人の方が2～3校対応しており、先生の話聞くような対応も可能です。</p>
委員長	<p>教職員のメンタル面のサポートも、どこかに書く必要があるのではないのでしょうか。イングリッシュコーディネーター、ICT支援員、スクールサポートスタッフ等、教職員以外の関わりが多くあるようですが、充足しているのでしょうか。採用予定、採用計画はどうなっていますか。</p>
事務局	<p>イングリッシュコーディネーターは市内1名で各学校を回っており、対応できています。ICT支援員も1名ですが、今後は必要に応じて増やしていく必要があります。スクールサポートスタッフについて、6月補正で7月以降に各学校1名ずつ配置予定です。</p>
委員長	<p>様々な支援体制がわかる指標があれば考えてください。</p>
委員	<p>スクールサポートスタッフの充実を図ることで、子どもたちと向き合ったり、働きやすくなったり、効果があったのでしょうか。</p>
事務局	<p>コロナ対策の消毒等について放課後の時間も仕事が増え、子どもたちに関わる準備ができないということで、スクールサポートスタッフに消毒作業をやらせてもらっています。</p>
委員	<p>消毒等の必要な仕事が増えているところに人員を投入していただきありがたいと思います。今後も状況に応じた対応をとっていただきたいです。</p>
委員	<p>主な取組の①-3 の表現で「キャリア教育が教育現場に根付くよう、教職</p>

	<p>員への研修・指導の充実を図る」とありますが、主な取組の具体例はもっと広い項目に感じます。「教職員への研修・指導の充実」という表現は限定しすぎではないでしょうか。体制づくりや枠組みづくりで良いのではないのでしょうか。</p>
委員長	<p>他の項目の表現はめざすことを書いていますが、ここでは手段になっており、ちぐはぐな印象があります。</p>
事務局	<p>①-3 の表現について、事務局で検討の上、次回の委員会でお答えさせていただきます。</p>
	<p>③青少年健全育成の推進 (資料④-1、④-2に基づき説明)</p>
委員	<p>学校教育、就学前教育にも関係しますが、コロナの影響で状況が変わり、貧困やヤングケアラー等の問題が生じています。子どもたちの成長に影響を与えるものです。宍粟市の状況について、教育委員会としてどのように把握しているのでしょうか。また、計画書の中で将来を見据えて対策を明記する必要があるのでしょうか。</p>
事務局	<p>貧困、ヤングケアラーについて学校として認識しているかということ、例えば①-2 の多様な相談内容の中でとらえています。そういった課題について、子どもたちの様子を毎日見ている中でいじめや家庭に問題がないか、声掛けをしています。貧困、ヤングケアラー以外にも、ネグレクトがあったとき学校だけで対応できないため、スクールソーシャルワーカー等とも連携しながら対応を進めています。</p>
委員	<p>生活困窮については社会福祉課と社協で情報共有の場を持って進めておられますが、子どもの貧困、ヤングケアラーなどの話もよく聞かれますので、教育委員会など他部局とも、横の連携を密にとって進めてください。</p>
事務局	<p>ヤングケアラーの問題については、ニュース等で報道されており、市でも取り組んでいかなければならないことです。現状では実態把握ができておらず、兵庫県が民生・児童委員を通じ、ヤングケアラーの把握に乗り出しています。それに対する支援については、地域福祉の充実の中で社会的孤立の解消に取り組んでいきます。ヤングケアラーについては議会の一般質問でもありました。行政以外の民間団体も含めて連携を考えていかなければ</p>

事務局	<p>ればいけないと考えていますが、総合計画では地域福祉の充実の中で記載していくことを検討します。</p> <p>④人口ビジョン (資料⑤-1、⑤-2に基づき説明)</p> <p>人口目標について、計画素案で2060年に3万人という仮目標をお示しし、今後の議論を踏まえて決定することになっておりました。今回、令和2年に実施された国勢調査の速報値が公表され、昨年度の宍粟市の人口動態も整理しましたので、現状報告と今後の目標設定に向けて意見をいただきたいと思います。</p> <p>今回の委員会で目標値を決めてしまうわけではなく、参考推計や人口目標の仮説を見ていただき、3万人の仮目標がどうか、また、宍粟市がめざすべき人口目標はどういったところかなど、ご意見をいただきたいと思います。今回で決めるものではありませんので、次回か、8月の会議でも検討していただきます。</p>
委員	<p>平成12年時点で宍粟市の合計特殊出生率が1.82と県内でも高かったとありますが、その理由は为什么呢。</p>
事務局	<p>5ページの図3-4に、これまでの推移をお示ししています。昭和60年には2.3、平成12年には1.82で、県内ではトップクラスでした。高い状態を維持してきましたが、近年、国や県と同様下がってきています。当時、県内でも高い出生率であった理由ははっきりとはわかりませんが、考え方の多様化やライフスタイルの変化により結婚をしない方が増えていることや、若者が減少する中で結婚相手が見つからないということも、出生率が下がってきている要因ではないかと思います。また、結婚を理由に市外に転出される若者も一定いることがアンケート結果にも出ており、出生数や出生率の減少につながっていると思われます。</p>
委員長	<p>様々な要因が絡んでいると思います。現在は3万人の目標を掲げており、5年前の意欲的な目標ですが、現状は厳しい数字も上がっています。国が地方自治体に人口目標を定めることを求めていることから、宍粟市のビジョンとして、目標人口を掲げることが必要です。いくつか仮説が示されましたが、現状とかけ離れ、現実感が無い目標にすると、本気度が感じられなくなるため避けるべきです。</p>
委員長	<p>この場で意見を出すのは難しいかもしれませんが、改めて文書で出し</p>

	<p>ていただくか、次回の議論で意見を出してもらおうということにしましょうか。</p>
委員	<p>人口ビジョンをどう捉えるかによって、目標設定が変わってくると思います。努力目標とするべきか、または保守的に考え、これだけ人口が減る中で今後の宍粟市をどう運営していくかを考えるための目標と捉えるのか、宍粟市の人口ビジョンはどちらでしょうか。</p>
事務局	<p>人口ビジョンは市がめざすべき目標ですが、社人研推計では同じ速度で人口が減少していくことになるため、それよりも高くしていく必要があると思います。現実としては厳しい数字が出ていますが、何かが変わることで、人口の方向性が変わっていく面もあり、市民や企業が将来の宍粟市に希望もてる目標とする必要があると考えています。一方で、行政の各種計画では、人口目標をベースにしながら事業やインフラ整備を考えていく面もあり、現実とかけ離れた数字というわけにはいかないとも考えています。</p>
委員長	<p>人口ビジョンは、目標を3万人とした場合でも、その実現のためにいくらかでも投資していくということではなく、一定期間で見直しながら、長期的な目標として、願望も含めた努力目標であると理解しました。もう少し考えたいという方が多いと思いますので、人口ビジョンについて今日はこれくらいにしておきます。</p>
事務局	<p>仮説の中に説明を入れてあります。後日でもよいので、率直なご意見をいただけるとありがたいと思います。</p>
事務局	<p>■その他  第11回宍粟市総合計画及び地域創生戦略委員会の開催日について  日時：令和3年7月15日（木）14時00分～16時00分  場所：市役所4階会議室、一宮市民協働センター、自宅等WEB参加</p>
委員長	<p>本日は教育に関することとして、宍粟市の将来を担う子どもたちに関する問題を協議しました。地域総がかりで教育を支えるということや、社会教育や福祉に関する問題もありました。問題が複雑になっており、コロナの影響も多方面で現れると思います。全てを予測することはできませんので、受け止める対策、仕組みが重要です。今後の議論でも教育に関わること、関連する問題が出てくると思いますので、委員の皆様には引き続き協</p>



	議にご協力をお願いしたいと思います。
--	--------------------